

埼玉ピースミュージアム(埼玉県平和資料館)の令和5年度事業について報告します。

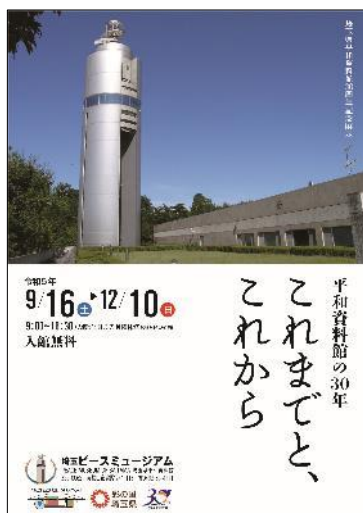
★開館 30 周年を迎えました★

平成5年8月1日に開館した埼玉県平和資料館は、今年度開館30周年を迎えました。10月21日(土)には、大野知事が来館し、館内を視察するとともに、館内で行われた東松山市主催の「ピーストレーニング」に参加していた小学生と平和について語り合いました。



① 30 周年記念展示「これまでと、これから」

令和5年9月16日(土)～12月10日(日)



埼玉県平和資料館は、「風化しつつある戦争の体験を次の世代に引き継ぎ、県民に戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に伝え、平和に対する県民の意識の高揚を図るとともに、平和な社会の発展に寄与すること」を目的として、平成5年8月に開館し、今年度で30周年を迎えました。これを記念した展示を開催し、30年間の平和資料館の歩みを振り返りました。

この展示では、過去に開催された企画展・テーマ展や当館に寄贈された主だった資料、そして当館職員が実物資料や写真を持参して行う「ピースキャラバン」をはじめとした学習支援プログラムについて紹介しました。

この展示は以下の5部構成で行いました。プロローグ／Ⅰ 平和を語るアニメーション／Ⅱ さまざまな企画展と収蔵品／Ⅲ 伝えるということ／エピローグ

「プロローグ」では、埼玉県平和資料館開館準備中に行われた、戦争に関する資料や戦争体験の証言の収集事業にまつわる資料を紹介しました。

「Ⅰ 平和を語るアニメーション」では、埼玉県平和資料館で定時上映を行っている『最後の空襲 くまがや』、『青い目の人形物語』の2本のオリジナルアニメーション映画に関する資料を紹介しました。『最後の空襲 くまがや』では、木下蓮三監督直筆の構想メモやシナリオ、キャラクターの設定資料を展示しました。また、『青い目の人形物語』では、物語に出てくる人形のモデルとなった、越谷市立大沢小学校所蔵の青い目の人形「ワテラ・ヘズ」とそのパスポートなどを展示しました。

「Ⅱ さまざまな企画展と収蔵品」では、「戦争に行った人々」、「戦時中の暮らし」、「子供と戦争」、「戦後の復興」という4つのテーマに分けて、過去に開催された展示のポスターと共に当館が所蔵する主だった資料を紹介しました。

「Ⅲ 伝えるということ」では、これまで埼玉県平和資料館が収集してきた戦争体験者の証言に関する資料を紹介しました。

「エピローグ」では、こどもに向けた戦争と平和に関する学習支援プログラムである「ピースガイドス」、「ピースキャラバン」を取り上げました。それぞれの学習支援プログラムの様子を撮影した写真や貸出用教材のセットを展示しました。



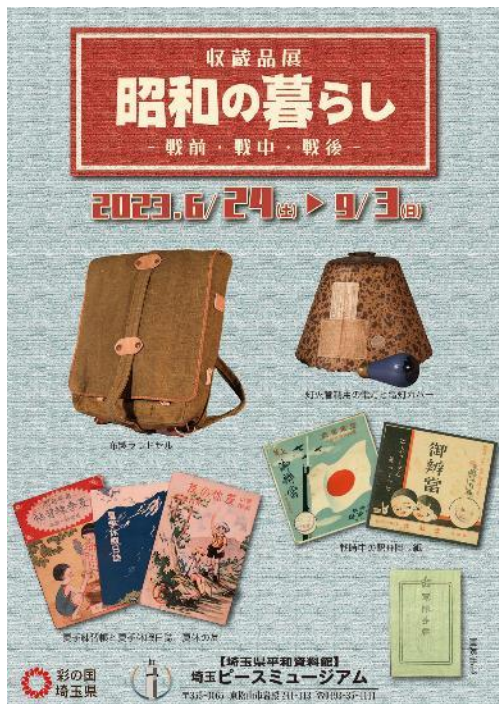
展示室の様子



青い目の人形 ワテラ・ヘズ
(越谷市立大沢小学校所蔵)

② 収蔵品展 昭和の暮らし—戦前・戦中・戦後—

令和5年6月24日(土)～9月3日(日)



戦後78年という年月が経過し、戦争を経験した方から直接お話を伺える機会が失われつつあります。当館では開館以来、戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えるため、先の大戦に関する資料や戦前期から戦後期までの生活用品などを収集し、調査・保存・展示などを続けてきました。戦争を知らない世代が多数派を占める現況において、当館に収蔵されている約37,000点の実物資料は、当時の暮らしや戦時下の状況を知るための貴重な手がかりとなるものです。

本展示では、戦前・戦中・戦後を通して私たちの暮らしがどのように変化してきたのかに焦点を当て、当館に収蔵されている資料の中から、主に人々の暮らしや生活に関する資料およそ150点を展示しました。

I 戦前の暮らし 大正時代以降、都市部を中心に近代的生活や大衆文化が広がっていきました。鉄道網などの発達による旅行ブームや、レコードや映画などのメディアが浸透したことにより、人々の関心が国内のみならず海外にも向けられていたことを、鉄道旅行地図や当時の雑誌などを通して紹介しました。

II 戦中・戦後の暮らし 昭和6(1931)年の満州事変勃発から昭和20(1945)年の太平洋戦争終戦後の時期を通して、戦争が国民の生活にどのような影響を与えたかを生活用品を中心に展示し紹介しました。例えば、昭和15(1940)年に制定された「国民服令」により、男性が「国防色」と呼ばれたカーキ

色の国民服を着用することが義務づけられたり、米の消費量を抑えるための「代用食」として家庭でパンを作ることが推奨されたりと、戦争によって人々の生活が制限を受け、変化を余儀なくされていく様子が見られました。

III 学校と遊び 物資が不足した時期に作られた布製のランドセルや戦争に関連した記述のある『夏季休暇日誌』(昭和12年)など、戦時中の学校生活が分かる資料のほか、当時のこどもたちの憧れの存在であった軍人の姿が描かれた双六やかたるたなどの遊び道具を展示し、現在のこどもたちの生活との違いを感じてもらえるようにしました。

IV 空襲と疎開 昭和19(1944)年以降、激しさを増していく空襲に対し、どのように備えたかが分かる資料や、空襲被害を逃れるために埼玉県に疎開してきたこどもたちの生活の様子がうかがえる資料などを中心に展示しました。戦時中、埼玉県は東京都からおよそ35校の集団疎開を受け入れていました。今回の展覧会では、飯能市に集団疎開していた小学生が描いたクレヨン画なども紹介しました。

V 出征から復員 明治6(1873)年から昭和20(1945)年まで、日本の男性には兵役の義務がありました。召集を受けて軍に入隊した兵士が復員するまでの様子を実物資料で紹介しました。展示資料のひとつに出征の際に掲げられた出征幟(のぼり)があります。出征が決まると、家族だけでなく、親類や近隣住民などが集まって壮行会を開き盛大に送り出していました。1mを超す幟には、出征する兵士に対する周囲の人々の応援する気持ちや無事を祈る想いが込められています。他にも、戦地に赴く



電極式パン焼き器 (当館蔵)

兵士の帰還を願い、女性たちが布に赤色の糸でひとり一針ずつ結び玉を縫い付けて作った千人針など、人々の想いが詰まった資料を紹介しました。

この展覧会は夏休み期間中の開催ということもあり、展示室にはこどもたちの姿も見られ、お盆や8月15日の終戦記念日には、特に多くの方にご来館いただきました。展示室では、ご自身やご家族の戦時中の思い出をお子さんやお孫さんに語っている方や、もんぺを見て「こどもの頃、実家にも同じものがあった」などと話している方もいらっしゃいました。

展示資料を通して、ご自身の体験や記憶と結びつけながら、戦時中の暮らしに思いを馳せていただく機会を提供できたのなら幸いです。



③ テーマ展 「戦争と健康」

令和6年1月20日(土)～3月10日(日)

本テーマ展は、戦時中人々はどうのように健康を守ろうとしたのか、また、当時の人々にとって健康とは何だったのかを主題としたものです。

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、私たちは「健康」というものを強く意識するようになりました。感染予防のためのマスク着用や手指の消毒、室内の換気などが新たな日常として定着し、コンサートやスポーツ大会などの社会活動が制限されることになりました。

今からおよそ80年前の太平洋戦争においても社会活動が制限されました。戦争に関連しない活動は制限され、食糧も物資も全てが戦争に優先的に割り当てられました。戦時中では多くの方が亡くなりましたが、直接的な攻撃によるものだけではなく、栄養失調や病気などで亡くなった人も多かったようです。

この展示は以下の6部構成で行いました。プロローグ／Ⅰ章 強い兵士を作るために／Ⅱ章 家で病気を治す／Ⅲ章 家でのお産／Ⅳ章 兵士と健康／エピローグ

プロローグの中では、盧溝橋事件を端緒として日中戦争が始まり、兵力の増強が求められるようになったこと、また、国家総動員法が制定されて国民の生活が統制されるようになった社会状況を紹介しました。

Ⅰ章では兵力の増強を求めるために作られた新しい制度や法律を、Ⅱ章では当時の人々が健康を守るために家庭に備えた医薬品やそれにまつわる資料を紹介しました。Ⅲ章

では、出生率を上げるための取組や、乳幼児や妊産婦の健康を守るための制度、そして、当時主流であった自宅での出産に関する資料を取り上げました。Ⅳ章では、戦場にいた兵士の健康を守るために活躍した軍の衛生部員、従軍看護婦、日本赤十字社救護員に関する資料を紹介しました。エピローグでは現代の埼玉県が健康を守るために行っている取組を紹介しました。

戦時中の日本にとって、健康とは戦争に勝つために必要なものでした。人口を増やし、強い兵士や労働者を育成するために様々な制度を作りました。結婚や出産など、個人の意思



写真「体力章検定(札幌女学校)」(当館蔵)

が尊重されるべきものも国が奨励していました。

現在の私たちにとっての健康と当時の健康とは意味合いが異なるものですが、私たちが当たり前のように考える病気の予防や規則正しい生活への意識、また健康を守る様々な制度は戦時中の日本から受け継がれています。

一方で、現在は健康に関して新たな問題が発生しています。出生率の低下や自殺者の増加、生活習慣病の増加が指摘されています。また、新型コロナウイルス感染症という新たな感染症が蔓延したのは記憶に新しいところです。

時代により健康という言葉が示すあるべき姿というのは移り変わっていくようです。



冊子「絶対健康を目指して！」(当館蔵)



衛生兵の鞆(当館蔵)

令和5年度に実施したイベント事業

平和ウィーク ―戦後78年目の夏休み 今、平和について考えよう― 令和5年8月5日(土)～8月13日(日)

1 はじめに

戦争と平和について考えていただくために、8月5日(土)～13日(日)を平和ウィークとし、様々なイベントを開催しました。「夏休みピースチャレンジ」や「戦時中の体験を聞く会」、「紙芝居読み聞かせ会」といった平和イベントをはじめ、子ども向けの「夏休みクラフト教室」を開催し、多くの方々にご来館いただきました。

2 「夏休みピースチャレンジ」

児童・生徒向けの平和イベントとして、8月5日(土)、6日(日)、11日(金)～13日(日)に「夏休みピースチャレンジ」を開催しました。

子どもたちは、探検パスポートを手に館内をめぐり、「クイズラリー」、「ガイダンス(ミニ授業)」、「アニメ映画」の3つの課題に取り組み、スタンプを集めました。

「クイズラリー」では、常設展示室と企画展示室を見学しながら、パスポートに書かれたクイズに挑戦しました。「ガイダンス」では、「暮らし(衣食住)」、「学校と遊び」、「空襲と疎開」、「出征と復員」について解説を聞き、戦時中の人々の暮らしについて学びを深めました。ガイダンス終了後には、テーマに合わせて展示した実物資料を手に取って見ていただきました。「アニメ映画」では、当館オリジナルアニメ映画『最後の空襲 くまがや』、『青い目の人形物語』をはじめ、小学校国語科の教科書に掲載されている『ちいちゃんのかげおくり』、『一つの花』のほか、広島原爆にまつわる『つるにのって』の5作品を上映しました。



チャレンジに参加した子どもたちには、名前入りの「平和大使認定証」をお渡ししました。チャレンジを終えた子どもたちが記した171点の「平和へのメッセージ」は、館内のギャラリーに展示しました。

この5日間を通して埼玉県内外から、のべ565名の皆様にご参加いただき、戦争の悲惨さと平和の尊さについて考えていただく機会となりました。

3 「戦時中の体験を聞く会」

8月5日(土)に東松山市との共催事業である「戦時中の体験を聞く会」を開催しました。語り手に小川町在住の三松保則さんをお招きし、『『万死に一生、奇跡の話』～爆心地から1kmの被爆体験談～』という演題のお話を伺いました。

【内容】

東京に住んでいましたが、昭和20年3月10日の東京大空襲など、空襲が激しくなってきたため、昭和20年4月に両親の故郷の広島に引っ越しました。

被爆当日の8月6日は、よく晴れていて暑い朝でした。次兄は学徒動員で宮島へ、姉は警戒警報の解除を受けて国民学校に出かけていきました。両親と私の3人が自宅の1階にいたのですが、突如、青白い光が天井からザーツという音と共に、夕立の雨のように降ってきて、そのまま気を失ってしまいました。気がつくと頭が動かない状況だったため、「母ちゃん、母ちゃん」と一生懸命泣き叫んでいると、母が気づいてくれました。家の1階は潰れていたため、空手を身につけていた父が、倒れている壁に素手で穴を空け、そこから私と母を救出してくれました。母は、頭蓋骨を5cmぐらい割っており、足にも重傷を負っていました。

外に出ると、隣家も潰れていたのですが、1階で白いものが動いているのが見えました。それは、柱に挟まれた娘さんと赤ん坊

でした。しかし、火が燃えてきたため二人とも助けることはできませんでした。また、反対側の隣家でも母親と娘さんが閉じ込められていたのですが、火の回りが早く、助け出すことはできませんでした。

家の前には松林があったのですが、太い松の木が根こそぎ水平に倒れていました。その松林を越えて、お泉邸(縮景園)に逃げ込みました。お泉邸の奥まで行くと、川が流れていて、淵には芝生が生えていました。しばらくすると竜巻が起り、体が浮き上がりそうになりました。怪我をした手で芝生につかまっていると、竜巻で巻き上げられた松の木が、近くに落ちてきました。もうおしまいだと思っていたところ、竜巻は消えてしまいました。

その後、顔が真っ黒でスイカみたいに膨らんだ人たちが、手を前にして「みずー、みずー・・・」とうめきながらやって来ました。その人たちは水を求めて川に転がり落ち、そのまま流されていきました。

翌日の朝になり、お泉邸の門の前に行くと、背中を真っ赤に火傷している男の人が座っていました。奥さんが背中に灰を付けていて、悲鳴をあげていました。しばらくすると、担架を持った兵隊が来て、爆心地近くの練兵場まで担架で運んでくれましたが、そこにいても仕方ないので外に出ました。外に出て歩いていると市電が止まっていた。運転手は黒い骸骨になっていたのですが、学徒動員で乗務していた女学生だったようです。

その後、己斐というところまで歩き、電車で古江の親戚のところに行きました。途中、たくさんの死体がありました。古江の親戚の家の近くには国民学校があり、その教室に医者に来て治療をしていましたが、満足な薬もなく赤チンを塗るだけでした。

姉は幟町国民学校に通っていましたが、校舎は半回転して倒れて燃えてしまったため、姉の遺骨は戻らないままとなってしまいました。

戦争は絶対にしてはいけません。文化や経済のみならず、人の良心が失われてしまいます。相手の立場を理解し、対話することで問題解決を図らなければいけません。また、若い人には原爆の記憶を継承していただきたいと思います。原爆の記憶も語り継がなければ、原爆の恐ろしさが失われてしまい、再び核が使われるようになってしまうかもしれません。

4 「紙芝居読み聞かせ会」

8月6日(日)に、坂戸市ボランティア団体「あじさいの会」と松山女子高校の2年生と3年生の有志の皆さんの協力により実施しました。上演作品は「原爆の子さだ子の願い」「父のかお母のかお」「おかあさんのうた」「ねこのおかあさん」の4作品を上演しました。いずれの作品も、平和の尊さを感じられる内容や紙芝居の奥深さが伝わる内容で、参加された方からは「広島原爆の日に、戦争の悲惨さを感じられる作品が見られ、平和の尊さを考えさせられました」などの感想が寄せられました。



5 「夏休みクラフト教室」

8月9日(水)、10日(木)に、小学生から大人までを対象とした夏休みクラフト教室を開催しました。9日は粘土と石を使ってサカナやネコなど、動物を模した作品作りを、10日は小枝を使ってカブトムシやウサギなどの作品作りを実施しました。はじめに見本を用意し、材料と道具の使用方を説明し、その後、個々に好きなものを作ることで、個性豊かな作品が出来上がりました。完成した作品は、各自持ち帰っていただきました。夏休みということもあり、平日の開催にもかかわらず、多くの親子連れの方にご参加いただきました。



主な企画・イベント

1 コンサート

今年度は以下の7回のコンサートを開催しました。特に10月には「30周年記念ピースコンサート」として毎週日曜日に様々なコンサートを開催しました。なお、6月25日と1月28日のコンサートは、チャリティーコンサートとして開催し、皆様からの寄付金は東松山市社会福祉協議会へ寄付しました。

- 6月25日(日) ソプラノ歌手 伊藤ちる チャリティーピースコンサート
- 8月27日(日) 青春バンドチェルシー 夏休みコンサート
- 10月 1日(日) Jazz Gypsy Swing Live (ギター、アコーディオン)
- 8日(日) 大東文化大学吹奏楽団 シンフォニックコンサート
- 15日(日) ふじみ野市音楽家協会 クラシックコンサート
- 22日(日) SPレコードコンサート (細川紙使用の日本最大級のホーン)
- 1月28日(日) テノール歌手 小林浩 チャリティーピースコンサート



テノール歌手 小林浩氏
チャリティーピースコンサート

2 クイズラリー

展示物への関心・理解を深めていただくために、ゴールデンウィークや県民の日などにクイズラリーを開催しました。多くの親子連れの皆様にご参加いただき、展示物を見学しながらクイズを解いていくことで、こどもから大人まで戦争と平和について学んでいただく機会となりました。



3 夕日鑑賞会・初日の出鑑賞会

展望塔を活用したイベントとして、夕日鑑賞会及び初日の出鑑賞会を開催しました。特に初日の出鑑賞会については、多くの来場者からご好評をいただきました。また、初日の出鑑賞会終了後も展望塔を一般開放し、海拔147.5mからの眺望を多くの皆様に楽しんでいただくことができました。



令和5年度実施事業一覧(展示・イベント・博学連携・刊行物)

● 企画展示

寄贈資料展-未来に伝える戦時の記憶-	3/21~5/28
収蔵品展「昭和の暮らし-戦前・戦中・戦後-」	6/24~9/3
30周年記念展示 「平和資料館の30年-これまでと、これから-」	9/16~12/10
テーマ展「戦争と健康」	1/20~3/10

● ギャラリー展示

写真で見る埼玉の昭和	5/2~7/30
平和へのメッセージ展	8/8~9/24
写真で見る埼玉の昭和2	10/3~1/28
写真展『比企丘陵の四季』	2/20~3/24

● 平和イベント

夏休みピースチャレンジ	8/5・6、8/11~13
戦時中の体験を聞く会	8/5
戦争体験者証言ビデオ上映	毎月第2・4土・日曜
紙芝居読み聞かせ会	8/6、11/12

● 博学連携事業(令和6年2月末現在)

ピースガイダンス 全62回(3715名)
小48、中4、高1、特2、市町村7
ピースキャラバン 全112回(8780名)
小98、中10、高1、特3
学習用教材貸出 全51件(重複あり)
実物資料28、写真パネル19、DVD24

● イベント

クイズラリー	5/3~7、9/16~18、9/23~24 9/30~10/1、10/7~9 10/14~15、10/21~22 11/12、11/14、2/10~12
コンサート	6/25、8/27、10/1、10/8、10/15 1/28
SPレコードコンサート	10/22
七夕イベント	6/27~7/17
ガーデニング教室	6/4
ヨガ体験教室	6/4、6/11、6/18
クラフト教室	4/29、8/9、8/10、11/23
夕日鑑賞会	11/12、11/14
昔遊び体験	11/12、11/14
イルミネーション	11/28~1/14
ウィンターナイトミュージアム	12/2、12/9、12/16、12/23
初日の出鑑賞会	1/1
落語会「酔狂亭雀庵」	2/18
映画会	毎週土・日曜(一部除く)

● 刊行物

テーマ展図録『戦争と健康』
A4/39頁 1000円(税込)



さいたまっち&コバトン

埼玉県平和資料館だより VOL.11(通巻61号)

発行日 令和6年3月

編集・発行 埼玉県平和資料館

〒355-0065 埼玉県東松山市岩殿 241-113

電話:0493-35-4111 FAX:0493-35-4112

E-mail:a2840-37@pref.saitama.lg.jp